

特集

羽田井に

大型酪農法人が誕生

(株)ブッシュユクローバーズ

昨年10月、羽田井字萩原に、国・県の補助事業で新しい酪農法人が生まれた。総事業費約21億円。広さは約6^{ヘクタール}で、90m×31mの牛舎が3棟、搾乳室棟などのほか、汚水を浄化する人工湿地も備えた施設を有する。
社長の佐藤さんらに話をうかがった。



次々と40頭が搾乳できるロータリーパーラー

法人化したきっかけは

高齢化と後継者不足で酪農家が減少するなか、3戸が共同すれば続けることができるだろうと考えました。

当初は300頭規模を考えましたが、従業員を雇うとなれば600頭規模が必要だろうと判断しました。

現在の状況は

(1) 乳牛の頭数

北海道などから購入し、既存の牛と合わせて、年度内には400頭くらいにし、最終的には目標の600頭にしたいです。

(2) 従業員

今、従業員は4人。今後20人くらいは確保したいです。できれば町内の人に来てほしいです。

(3) 乳牛の飼料

イタリアンなどの牧草を自給飼料として栽培しているが、3分の1程度の自給です。残りは購入した飼料です。

(4) 牛乳の出荷先

琴浦町の大山乳業協同組合(白バラ乳業)へ出荷しています。大山乳業から集乳車が来ます。現在、1日3トンほど出荷しています。将来は15トンを出荷したいです。

牛と人(従業員)との関係は

牛との直接の接触は少ないので、牛の扱い方を訓練しなければならぬということはありません。むしろ人が機械に慣れることが必要です。搾乳するロータリーパーラーはむずかしいもの



牛にストレスがかからない牛舎

ではないので、勉強すればすぐ作業できるようになります。

牛は適応力があり、最初の2日間で新畜舎に慣れました。搾乳室では一度に40頭が入れます。